

# ii!! TAC. 通信

Tとことん、A会って、Cコミュニケーション!!

【 JA版・第807号 】

本所 耕種総合対策部 TAC・営農支援課提供 令和7年11月12日 更新

次回は令和7年11月26日(水)配信予定です。

★各欄の《下線部分》をクリックしていただきますと、記事内容が表示されます★

## †TAC!!公式アカウント 友達募集中†

TAC公式LINEアカウントではTACの皆様が日々扱い手に訪問する際に  
話のネタになる情報や営農技術関係の情報などを配信しています。  
ぜひご登録ください!

■登録は右のQRコードからお願いいたします■



## お知らせ

### ■千葉県農協A.T.A協議会・全農千葉県本部「水稻総合研修会」を開催(10/21) NEW

千葉県の7年産米・水稻を振り返り、課題対策のため10月21日、千葉県下JAのTAC・営農指導員・経済担当等で構成された「千葉県農協A.T.A協議会」と全農千葉県本部は水稻に特化した総合研修を共催し、県下JA・関係機関など70名が参加しました。

7年産では育苗段階から発芽不良が頻発しており、本研修では播種～育苗技術の再確認をテーマに千葉県庁より講師を招き、講義を頂きました。また、千葉県全域で課題となりつつある「イネカメムシ」の対策と取り組みや、省力・低成本、スマート農業、土づくり、千葉の水稻作で恒常的な課題である「藻類」対策等をキーワードにJA・メーカー等より取り組み報告および協議・検討をおこないました。

本研修を通して、県下JAのTAC、営農指導員等の更なる資質向上とJA営農指導事業の強化、水稻生産者の経営安定に活かしていきます。



【①研修の様子、②～④資料の抜粋】

### ■東京都本部×千葉県本部「千葉県本部主催：JA営農・経済担当者向け『研修会』（水稻に関する基礎）」に参加(10/21) NEW

東京都本部管内のJA職員2名は、千葉県県域が主催した「都県外職員参集研修会」に参加した。東京都の水稻生産は少ないが、興味あるJA職員は熱心に講義を受講した。また、他県JAとの交流もあり参加したJA職員は、有意義な研修だったと語っていた。



【都県外職員参集研修会の様子】

### ■東京都本部×群馬県本部 東京うど本部間でのマッチング「うど根株の受託」 NEW

東京都本部は、群馬県本部の協力のもと「東京うど」の根株養成の関する取り組みをしました。

江戸東京野菜である「東京うど」は、北関東の高冷地で根株を一定期間養成させたあと東京へ持ち帰り、ムロという日光の当たらない穴の中で伏せ込んで出来上がります。近年、各受託者の高齢化により受入体制が困難となる中、群馬県本部協力のもと、うど根株養成の受託者と都内生産者のマッチングが実現しました。



## 【うど栽培の様子】

### ■静岡経済連「令和7年度 営農経済事業パワーアップ大会」を開催！（10/21）NEW

静岡経済連は10月21日に県農業会館講堂にて、営農経済事業パワーアップ大会を開催しました。農家組合員の課題・要望の解決、経営安定と所得向上を図るために「出向く活動強化するために必要なこと」と題して、優良事例報告や分科会を通じて、営農経済事業取組みのレベルアップを目的に開催されました。県下JA営農経済部職員、各連合会に加え、同時開催した商品提案会参加の肥料農薬資材各社からの出席もあり100名超の規模となりました。

全農西日本事業所より全国情勢とTAC活動報告に続き、県外事例報告では全農TAC・出向く活動パワーアップ大会2024で地区別優秀賞を受賞したJA湘南の濱端氏による「世界初 ピーマン革命」、同全農会長賞のJA京都中央の佐藤氏から「京おくら新たな産地化へ～ゼロからのスタート～」の講演の後、分科会が行われました。

大会後の参加者アンケートでは、情勢報告、優良事例報告、分科会が全て90%を超える高評価となりました。次年度の開催も、JA営農経済職員が実践で役立つ大会を目指します。



【令和7年度 営農経済事業パワーアップ大会の様子】

### ■東京都本部「JA経済担当職員窓口現地研修会」を開催（10/15）NEW

東京都本部は、10月15日にJA経済窓口職員研修を、肥料農薬の基礎知識の習得を促し窓口対応の円滑化・事業拡大を図ることを目的として開催しました。

参加者40名は、普段見学できない肥料・農薬の製造工場を視察した。「実際に取扱している資材の生産現場を確認できたことで、安心・安全を組合員にお届けできる」「推進にも力がはいる」と語っていた。



【研修会の様子】

### ■愛媛県本部「よりよい営農活動研修会」を開催（10/9）NEW

愛媛県本部はJAの野菜・花卉担当指導員で組織するJA愛媛園芸指導員会を事務局として、「よりよい営農活動研修会」を開催しました。「よりよい営農活動」については、GAP手法（5分野：食品安全、労働安全、環境保全、人権保護、農場経営管理）を用いて生産現場の課題解決を図るとともに、安全・安心・環境に配慮した農業の推進を通じて、持続可能な農業の実現に向けた営農指導を進めることを目的としています。

当日は、JA及び県本部職員、県中央会より20名の参加のもと、全中より講師を招き、座学とGH農場評価実践研修を行いました。今後についても、営農指導場面で「よりよい営農活動」に取り組めるよう、人材育成も含めて取り組んでいきます。



【研修会の様子】

### ■千葉県本部「令和7年度 第3回基礎研修及びA.T.A生産技術部会（果樹）」を開催（10/7）NEW

千葉県本部営農園芸部営農支援課は、10月7日に「令和7年度 第3回営農・経済担当者向け基礎研修（果樹に関する基礎）及びA.T.A生産技術部会（果樹）」を開催しました。A.T.Aとは、Agricultural（農業の）、Technical（技術上の）、Adviser（相談相手）の略で、総合的な営農指導を目指します。

基礎研修では、県内での果樹生産、特にナシ栽培について学びました。A.T.A生産技術部会では、今年度の生産総括を踏まえ、協友アグリ株式会社より交信搅乱剤の活用について、千葉県庁扱い手支援課よりニホンナシにおける包括的IPM体系について説明があり、ナシの防除を深く学ぶ機会となりました。

千葉県本部では、今後も総合的な営農指導を目指した人材育成に取り組んでいきます。



【研修会の様子】

## ■三重県本部「営農経済渉外担当者合同会議」を開催（10／7）NEW

J A全農みえ営農対策部は10月7日、津市の三重県総合文化センターで三重県営農経済渉外担当者合同会議を開きました。J A営農経済渉外・T A C担当者が相互に現場課題の共有や情報交換をすることを目的に初めて実施し、J Aや県農業改良普及センター、全農みえから約40人が参加しました。

関連機関・部署からの情報提供として、獣害対策の考え方や電気柵の正しい使い方、米穀情勢、園芸・水稻資材の提案、バイオスティミュラント資材の紹介、ジャンボタニシ対策、共同購入コンバインの紹介、スマート農業に関する案内などを行いました。

J Aにおける課題の共有・情報交換として、農家との接点づくりや接し方について、購買・販売の推進戦略、提供情報がない時や農家繁忙期の訪問時の工夫などの項目をもとに課題や対応方法を共有しました。情報交換では、若手育成で実施していることや部門間連携の進め方、T A Cの体制やD X推進方法などについて活発に意見を交わしました。

参加者からは、「農家訪問時の武器となる情報が得られるため、県内J Aの間で横のつながりを持てる機会を引き続き作ってもらえるとありがたい」などの意見がありました。



【会議の様子】

## ■愛媛県本部「令和7年度 農林水産参観デーにスマート農業ブースを出展」（10／1-10／2）NEW

愛媛県本部は10月1日・2日、愛媛県が主催する令和7年度農林水産参観デーに西日本営農技術センターと協力し、「ザルビオ」・「Z-G I S」等のスマート農業ブースを出展しました。

当日はブースを訪れた生産者に対し、「ザルビオ」の生育ステージ予測による近年の気候変動に合わせた栽培管理や手作業またはスマート農機を活用した可変施肥による収量増・コストダウンが可能になることなどについて説明しました。愛媛県本部では、引き続き低コストで農家が取り組みやすいスマート農業の推進を行うとともに、県下J Aに積極的に情報提供を行っていきます。



【ブースを出展の様子】

## ■J Aわかやま「令和7年度営農経済渉外パワーアップ大会」を開催！（9／26）NEW

J Aわかやまは9月26日に和歌山県J Aビルにて、4月の県一合併後初となる営農経済渉外パワーアップ大会を開催しました。「組合員への訪問面談活動による新たな需要の創出と出向く体制の強化をはかる事」をテーマに、営農経済部門の管理者及び営農経済渉外リーダー、担当者が一堂に会し総勢50名で実施されました。

系統経済事業活性化運動の結果について営農経済企画室から報告ののち、T A C・出向く活動パワーアップ大会2025地区別審査委員会で発表があった紀州地域の津村氏、本大会へ選出されたながみね地域の土谷氏より取組事例の発表がありました。基調講演では同大会2024 J A部門優秀賞のレーク滋賀より田中次長、西村課長に「出向く活動に向けたJ Aの取組について」と題して講演いただきました。その後の分科会では、合併後の出向く活動について地域を越えた情報共有をおこない、下期に向けた取組みの強化を再確認する貴重な機会となりました。



【営農経済渉外パワーアップ大会の様子】

## ■本所耕種資材部 施設園芸企画課「トレーニングセンター幸手 研修者二次募集開始のお知らせ」NEW

全農施設園芸企画課では、令和8年に埼玉県幸手市に設置する「ゆめファーム全農トレーニングセンター幸手」（埼玉県幸手市）にて、第一期研修者の二次募集を開始いたします。

栽培品目	トマト・ナス・キュウリ
研修期間	令和8年10月～令和10年9月（原則2年間・応相談）
研修費用	無料
雇用契約	本会の臨時職員として雇用（更新期間の定め・更新上限あり）
賃金	時給1,078円（令和7年5月現在。埼玉県の最低賃金に準ずる）
就業時間	8:30～17:00（繰り上げ・繰り下げあり）
応募資格	<ul style="list-style-type: none"><li>① 普通自動車運転免許必須(AT限定可)</li><li>② 入会時に住民票がある地域のJA組合員になる方</li><li>③ 10年以上営農を継続できる方</li><li>④ 性別、農業経験の有無は不問</li></ul>
応募方法	<ul style="list-style-type: none"><li>① 「ゆめファーム全農トレーニングセンター幸手」研修（求職）申込書</li><li>② 身上調書</li></ul> <p>上記2点をHPよりダウンロードいただき、事務局へメール送付ください。</p>
応募期限	令和7年12月5日（必着）

より詳細な情報については、HPに掲載の研修者募集要領をご覧ください。

【HPはこちら】⇒⇒ [（ゆめファーム全農トレーニングセンター幸手の紹介 | JA全農）](#)

Web個別説明会も随時開催中です！下記URLよりお気軽にご応募ください。

【個別説明会申込はこちら】⇒⇒ <https://forms.office.com/r/yDVfGbDY2y>

今後も都度HPやTAC通信・TACLINE等を用いてこまめに発信していきますので、引き続きよろしくお願ひいたします！

## ■農林水産省からご案内 NEW

### 農林水産省「有機農業の日」特設ウェブサイトへの事例掲載について

12月8日の「有機農業の日」に合わせて、特別期間（2025年11月14日（金）～12月14日（日））を設け、農林水産省ウェブサイト内の「有機農業の日（オーガニックデイ）」特設ウェブサイトにおいて、掲載応募者の取組を掲載することにより、有機食品の認知度向上や販売促進等に関する情報発信を行います。

すでに応募いただいた方におかれましては、ありがとうございました。確認が取れたものから順次アップしておりますので、引き続きよろしくお願いします。

また、「有機農業の日」に向けて取組をより盛り上げるため、ハッシュタグ「#有機農業の日」「#オーガニックデイ」を付けて、SNS等を活用した情報発信のご協力もよろしくお願いします！

### 農林水産省「有機農業の日」特設ウェブサイト↓

[有機農業の日（オーガニックデイ）～有機農業を盛り上げる取組に参加しませんか～：農林水産省](#)

#### 掲載内容

- ①学校給食での有機農産物等の利用予定
- ②小売事業者等による有機食品の販売促進・情報発信の取組予定
- ③ 有機農業関連イベント情報

掲載は応募は現在も受付中です。ご応募お待ちしております。



## 農林水産省【参加者募集】農業参入事例の情報交換会のご案内

1. 農林水産省では、他地域等からの参入事例や行政の取組・支援についての情報交換を目的に、「他地域等から参入した担い手の事例に関する情報交換会」をオンラインで開催します。第4回は、農業分野への出資等を通じて参入した企業から、参入の経緯や苦労等について、お話しいただきます。

### ▼第4回情報交換会の開催概要

- ・日時：11月18日（火）13:30-（2時間）
  - ・事例発表者：事例発表者：双日（株）、（株）三井住友銀行、（株）かまくらや
- ※参加は無料です。

### ▼開催内容や申込方法の詳細は、こちら。

[https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/sannyu/kigyou\\_sannyu.html](https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/sannyu/kigyou_sannyu.html)

### ▼お問合せ先

農林水産省経営局 経営政策課担い手企画班 TEL：03-6744-2143（直通）



2. 農林水産省及び日経ビジネスは、法人の農業参入を促進するため、農業参入を希望する法人と法人を誘致したい地域の具体的なマッチング等を行う「農業参入フェア 2025」を開催します。

### ▼農業参入フェア 2025 の開催概要

#### (1) 大阪会場

- ・日時：12月9日（火）13:00-15:10（開場 12:30）
- ・会場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）（大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51）
- ・事例発表者：（株）パソナ農援隊

#### (2) 東京会場

- ・日時：12月17日（水）13:00-17:00（開場 12:30）
- ・会場：東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内3丁目5-1）
- ・基調講演者：（株）農林中金総合研究所
- ・事例発表者：（株）マイファーム、北海道エア・ウォーター・アグリ（株）

### ▼詳細は、こちら。事前登録制で参加費無料です。

<https://www.maff.go.jp/j/press/keiei/seisaku/251027.html>

▼農業参入フェア 2025 プレイベントとして9月に開催しました「農林水産省と参入企業とのトークセッション」のアーカイブ動画を公開しました。動画の視聴は無料です。視聴には別途ログインが必要です。

[https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/sannyu/kigyou\\_sannyu.html#nougyou2025](https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/sannyu/kigyou_sannyu.html#nougyou2025)

### ▼お問合せ先

農林水産省経営局 農地政策課有効利用グループ TEL：03-6744-2152（直通）



## ■本所耕種総合対策部 TAC・営農支援課「91農業」のインスタグラムを開設しました！

全農 TAC・営農支援課では、多様な人材が各自のライフスタイルに合わせて農業に関わることができるよう、農業へのハードルを下げる農業参加を促進する、「あなたのライフスタイルに農的生活を1割取り入れませんか？」をコンセプトとする新たなライフスタイル「91農業」（キュウイチノウギョウ）を提唱しています。この活動を通じて、農業に興味がある人や将来農業を志す人に対し、農業を経験する場を提供したいと考えています。

この取り組みをさらに多くの方々に発信するために、10月6日に「91農業」の公式インスタグラムを開設しました。今後は「91農業」の情報や作業の様子を投稿していきます。

毎週2回、月曜と木曜（祝日の場合は翌日）の夜に投稿しますので、ぜひご覧いただくとともに、フォローもよろしくお願ひします！



## ■岡山県本部「桃生産者へ農機の安全操作ならびに点検に関する研修会」を開催（10／16）

J A全農おかやまは10月16日、JA岡山中央会、JA晴れの国岡山、JA全農岡山農機事務所と共同で桃生産部会員を対象に農機研修会を開催しました。

当日はやまびこジャパン株式会社より講師をお招きし、スピードスプレイヤー（SS）や高所作業機の実機を前に適切な操作方法や点検・整備のポイントを共有しました。また、園地における農作業事故事例を紹介し、農作業安全への意識向上を図りました。研修会後半では、生産者が所有する草刈機を持ち込み、講師に日頃の使い方やメンテナンスを直接質問する時間も設けられ、現場の課題解決につながる実践的な研修となりました。

今後もグループ一体となって担い手に寄り添い、園芸振興と安全・安心な農作業の推進に取り組んでいきます。



【スピードスプレイヤー操作説明の様子】

## ■福岡県本部「JA糸島・JA粕屋 同行訪問および意見交換」（9／29）を実施

福岡県下TAC活動強化の一環として、JA糸島にてJA粕屋との同行訪問および意見交換を実施しました。TAC設置2年目のJA粕屋が、JA糸島TACと糸島管内の生産者へ同行訪問を行い、実際の訪問活動を通じ担い手との関わり方や対応のポイントを学びました。その後、JA糸島会議室にて両JAの体制や活動内容、担い手営農サポートシステムの活用について意見交換を行い、両JATAC活動に関する理解を深めました。県域TACでは今後も県下JA間の連携を促進し、TAC活動のさらなる活性化を図ってまいります。



【JA糸島・JA粕屋 意見交換の様子】

## ■岡山県本部「営農指導員強化研修」を開催（9／18）

岡山県本部は、9月18日に営農指導員強化研修を実施し、出向く活動について講義しました。

本研修は3年間を通じて、土壤肥料技術、病害虫管理技術、栽培技術などを体系的に学び、當農指導員の基礎知識・技術力を向上させることを目的としています。今回は1年目職員を対象に、出向く活動の意義に関する座学と担い手営農サポートシステムの操作体験を行い、受講生は記録の蓄積が自身の活動の振り返りや情報共有に役立つことを学びました。また、JAグループ岡山が推進するブロッコリーの生産振興の一環として、定植前の農薬散布や、苗の観察を通じて生育差の要因を考察するフィールドワークも実施しました。

岡山県本部では、今後も担当者の出向く活動スキル向上を目指した研修会を継続していきます。



【ブロッコリー苗管理の現地実習の様子】

### ■岡山県本部「JA担当者向け担い手営農サポートシステム操作研修」を開催（9／16）

岡山県本部は、9月16日にJA晴れの国岡山の赤磐アグリセンターにてJA指導員を対象とした担い手営農サポートシステムの操作研修会を実施しました。

本研修では、担当者の出向く活動に活かせるよう、パソコンでの操作研修に加え、タブレットでの操作研修も行いました。カリキュラムには面談記録の記入だけでなく、ファイル機能やダッシュボードなど応用的な使い方も盛り込みました。参加者からは、「タブレットで撮った写真を面談記録に添付できるとは知らなかった」、「ダッシュボードを管内の情報共有・状況把握に役立てたい」との声がありました。

岡山県本部では、引き続き管内JAのTAC活動を支援できるよう、様々な研修会を実施してまいります。



【担当者が研修会の様子をタブレットで撮り扱い手営農サポートシステムに投稿した様子】

## 技術情報

### ■農研機構 技術情報 大量合成可能なジャガイモシロリストセンチュウ ふ化促進物質を発見 “騙して”ふ化させ、餓死に導く新たな防除法へー (農研機構HPへリンク) NEW

今週は、大量合成可能なジャガイモシロリストセンチュウ ふ化促進物質を発見した研究成果を紹介します。

#### 【概要】

農研機構、日本曹達株式会社、北海道大学の研究グループは、ばれいしょの世界的な害虫であるジャガイモシロリストセンチュウ (*Globodera pallida*) に対する、化学構造が単純で大量合成が可能なふ化促進物質を新たに発見しました。ほ場試験では、この物質の処理により土壤中のジャガイモシロリストセンチュウ密度を大幅に低減させることに成功しました。本成果は、全く新しい作用機作の防除技術の実現に向けた一歩となるものであり、持続可能なばれいしょ生産への大きな貢献が期待されます。

※農研機構プレスリリース・普及成果情報は担い手営農サポートシステム「ナレッジ」18\_ (TAC広報・情報誌) にリンクを貼付しています。

(出典：農研機構HP 普及成果、研究成果より)

~全農は、農業現場が抱える課題の解決に向けて、農研機構と連携し、新技術・新品種の産地提案や実証試験を通じた普及推進に取り組んでいます~

### ■農薬研究室 技術情報 剤型について【固体製剤】 (アピネス/アグリインフォHPへリンク)

今回は「剤型について【固体製剤】」について紹介します！

各固体製剤の特徴についてご案内いたします。ぜひ参考にしてください。

担い手営農サポートシステム「ナレッジ」04\_ (農薬) にも格納してあります。

(出典：アピネス/アグリインフォHP 営農情報より)

## 農業労働力支援

### ■全農本所TAC・営農支援課 「全国労働力支援協議会」の開催

本所TAC・営農支援課では、全国6ブロックに設置したブロック別労働力支援協議会での協議を踏まえ、農業労働力支援を通じた地方創生・地域活性化を目指す「全国労働力支援協議会」を令和4年3月に設立し、設立以降毎年開催しております。

6ブロックの協議会（北海道、東北、関東甲信越、北陸東海近畿、中国四国、九州）と、全中、全共連、農林中金、全農およびパートナー企業を構成団体とし、オブザーバーとして農水省他関連省庁や関係企業等にも参加いただいている。

今後、本所TAC・営農支援課は協議会を通じて、①農業への多様な人材の活用促進、②農業以外の他産業との連携促進、③後継者誘導しやすい環境づくりの促進を目指し、農業だけでなく地方が抱える課題の共有と解決に向けた取り組みを進めます。

## ■全農本所TAC・営農支援課 「91農業」の提唱

本所TAC・営農支援課は、様々な方々に農業参加を促す新たなライフスタイル「91農業」を提唱しております。

他産業・一般の方々に向けて、①農業へのハードルを下げる農業参加を訴求すること、②パートナー企業連携による農作業請負の取り組みを広く周知すること、等を目的として「あなたのライフスタイルに農的生活を1割取り入れませんか？」をコンセプトに、少しでも多くの方が農業に関わるような環境を目指して全国労働力支援協議会とも連携しポスターやHP等でPR活動を進めています。



- 9本業1農業：休みの日に1日農業、新しい副業の形
- 9育児1農業：子育てしながら一時期に農業、新しいパートの形
- 9旅行1農業：旅行の1日に農業、新しい旅行の形
- 9夢追1農業：夢を追いかながら一時期に農業、新しいパートの形
- 9自宅1農業：家以外に居場所が一つ増える、新しい就労支援の形

## 事業承継

### ■全農本所TAC・営農支援課 「事業承継支援 虎の巻」のご案内

全農本所TAC・営農支援課では事業承継ブックを活用した事業承継支援にかかるTACの技を収集し、全国のTACの皆さんに「達人の極意」として共有いただけるよう「事業承継支援 虎の巻」を発信しています。

あなたの「技」を全国のTACへ伝授いただけませんか？伝授についてのご相談は県域TAC部署を通じて本所TAC営農支援課にご連絡ください！

担い手営農サポートシステム「ナレッジ」17\_（新規就農・事業承継）にも格納済みです。ご活用ください。

### ■全農本所TAC・営農支援課 「Z-GISで効率的な事業承継の実現を！」のご案内

全農本所TAC・営農支援課では訪問チラシ「Z-GISで効率的な事業承継の実現を！」を作成しています。Z-GISの推進および事業承継の啓発の際にご活用ください。[こちら](#)からご確認いただけます。

### ■全農本所TAC・営農支援課 「JAグループにおける事業承継ブック親子版を活用した事業承継支援の手引き」のご案内

全農本所TAC・営農支援課ではJA全国担い手サポートセンターと連携し、JA等職員に「事業承継ブック親子版」を一層活用いただくべく取り組みポイントを整理し、支援の具体的イメージが理解できるよう手引きを作成しています。

ご一読いただき皆様の事業承継支援の取組の後押しとなることを願っています。

手引きは、担い手営農サポートシステム「ナレッジ」17\_（新規就農・事業承継）にも格納済みです。

### ■全農本所TAC・営農支援課 事業承継啓発チラシ親子別Ver. のご案内

全農本所TAC・営農支援課は、事業承継啓発に係るツールとして親子で別々に活用できるチラシを作成しています。このチラシは「初めて親、子の意向の聞き取る際に親と子で別々にアプローチすると進めやすい」というTACの声をもとに作成しました。個別ヒアリング後、内容を親子で共有する場をつくることで、以後の経営者と後継者の話し合いのきっかけとなるよう事業承継を提案する最初の一歩目のツールとして使いやすいものとなっていますので、担い手訪問の際に持参していただければと思います。

チラシデータは担い手営農サポートシステム「ナレッジ」17\_（新規就農・事業承継）にも格納済みです。

### ■事業承継ブック（部会版）発行・配付

本所TAC・営農支援課は「事業承継ブック～産地全体の話し合いのきっかけに～」（事業承継ブック部会版）を発行し全農HPで公開しています。是非、各県でのTAC活動を通じて活用をよろしくお願ひします。

全農 HPは[こちら](#)

### ■事業承継ブック（集落営農版）発行・配付

本所TAC・営農支援課では各県からの意見に基づき、「事業承継ブック～世代を超えた話し合いのきっかけに～」（事業承継ブック集落営農版）を発行し全農HPで公開しています。是非、各県でのTAC活動を通じて活用をよろしくお願ひします。

全農 HPは[こちら](#)



## !! Z-GIS の動画のご紹介 !!

全農本所スマート農業推進課が、新たにZ-GISの動画を1編作成しました。計3篇を公開しますので県やJA・生産者のへの導入、展示会等のPRにぜひご活用ください。  
Z-GISスタートアップガイドは[こちら](#)  
Z-GISユーザーインタビューは[こちら](#)  
Z-GISユーザーインタビュー2020は[こちら](#)



本所スマート農業推進課では、Z-GIS・ザルビオの利用促進、さらなる普及拡大を目的に、令和元年度のZ-GIS導入ガイドから始まり、令和4年度は「Z-GIS・ザルビオ活用ガイド2023/2024」を発行しました。

各システムのユーザーである全国の生産者、JAにインタビューを実施し、計8事例掲載しております。また、ガイドの冒頭2ページに、Z-GIS・ザルビオを導入いただいたユーザーのスタートアップを支援するため、利用登録から圃場・作付登録までの手順を掲載しております。

冊子をご要望の方は、本所各営農資材事業所、本所スマート農業推進課までご連絡ください。また、Z-GISホームページや担い手営農サポートシステム「ナレッジ」15\_（スマート農業・ICT）でもPDF版を公開しております。

活用ガイド2023/2024は[こちらから](#)ご覧いただけます。

## 人材育成 (TACアグリビジネススクール、他各種研修資料等)

### ■本所TAC・営農支援課 令和7年度TACアグリビジネススクール開催スケジュールのご案内

令和7年度のTACアグリビジネススクールについて、日程が決定いたしましたので下記の通りご案内いたします。

※第8～10回で開催時間の変更がありましたので、ご確認ください！ 2025/7/9 更新

回	日程	時間	テーマ
1	6/3 (火)	10:00～15:00	農業を取り巻く情勢・取り組み
2	7/9 (水)	10:00～15:00	生産資材・技術情報①
3	8/5 (火)	10:00～15:00	農業労働力支援・相続・事業承継
4	9/3 (水)	10:00～15:00	農業現場における労務管理・会計基礎
5	10/8 (水)	10:00～15:00	会計・税務研修①
6	11/5 (水)	10:00～15:00	会計・税務研修②
7	12/3 (水)	10:00～15:00	会計・税務研修③
8	1/7 (水)	10:00～15:00	総合事業連携の取り組み
9	2/4 (水)	10:00～15:00	生産資材・技術情報②
10	3/4 (水)	10:00～15:00	販売強化の取り組み

※日程やテーマは会議室・講師の都合により変更する場合があります。

### ■本所TAC・営農支援課 TACアグリビジネススクール収録動画の格納について(ご案内)

本所TAC・営農支援課は開催した「TACアグリビジネススクール」の講義内容の動画をYouTubeに限定公開しています。

動画URL・講義資料は担い手営農サポートシステム「ナレッジ」13\_（会議・研修・手引き資料）にも格納済みです。

## ■「TACの手引き」、「TAC扱い手訪問ハンドブック」

TACの意義や導入目的、取組の進め方など、TACの導入から運用に至るまでを網羅する「TACの手引き」と、扱い手訪問のノウハウをまとめた「TAC扱い手訪問ハンドブック」について扱い手営農サポートシステム「ナレッジ」13\_（会議・研修・手引き資料）に掲載しました。ご活用ください。

## 貸出資材

### ■全国共通資材の貸出

○のぼり、ハッピ、テーブルクロス

貸出申請書は、扱い手営農サポートシステム「ナレッジ」18\_（TAC広報・情報誌）22\_（店舗・イベント）に格納されています。

○提出先：[zz\\_zk\\_tac@zennoh.or.jp](mailto:zz_zk_tac@zennoh.or.jp)

◎必ずクリーニングをして返却してください◎

◎返却の送料は貸出先にご負担いただきます◎

○タペストリー

本所TAC・営農支援課は「TACパワーアップ大会2024」の開催にあわせ、TACタペストリー一覧を更新しました。イベント時などにご使用ください。

なお、使用時は「TACタペストリー貸出しマニュアル」のご一読をお願いします

○提出先：[zz\\_zk\\_tac@zennoh.or.jp](mailto:zz_zk_tac@zennoh.or.jp)

※扱い手営農サポートシステム「ナレッジ」12\_（パワーアップ大会・営農指導員大会）に投稿済

## 経営相談

※無料ですので、積極的にご活用ください！！！

### ■扱い手対応の経営相談

扱い手を対象として経営に関する相談を行っています。 経営に関する税務の疑問・質問がありましたら、県域TACまで連絡ください。

### ■農業経営支援に関する役立つ情報を配信します！

農業経営支援に関する役立つ情報をTAC通信、TAC LINEで配信をしていきます！

実際に合った事例や、過去の対応・決算データ等を基に現場のTACに分かりやすい形でお届けします。

◆記事はこちらから [Click here](#)

△今後の配信スケジュール

TAC通信（毎月第4水曜日掲載）／TAC LINE（毎月末配信）

### 配信月 | テーマ

○ 節税のポイント！を全5回シリーズで解説！

5月 農地の取得・保有・譲渡編

6月 設備投資編（スマート農業、環境負荷軽減）

7月 青色申告編-①

8月 青色申告編-②

9月 法人化編

○ 事業承継支援に向けた扱い手の経営税務に係る  
チェックポイントを全5回シリーズで解説！

10月 集落営農法人の事業承継

11月 個人親子間

12月 法人親子間

1月 個人第三者承継

2月 法人第三者承継

○ これだけはおさえておきたい！インボイスを解説！

3月 経過措置への対応策について

## ◆アンケートはこちらから！

農業経営支援に関する上記の記事の感想、今後取り扱ってほしいテーマなど皆さんのお声を気軽にお聞かせください！

## 扱い手営農サポートシステム関連情報

### ■扱い手営農サポートシステムの利用申請について

利用申請(新規、再登録、削除)については、Web上で実施していただきます。

(URL : <https://zennoh.my.site.com/entry>)

以下登録の手順をお知らせいたします。

- ①上記URLを開き、必要事項を入力
- ②入力内容を確認し、利用規約に同意する
- ③入力した内容が記載されたPDFがダウンロードされる
- ④申請情報で入力したアドレス宛に申し込み完了メールが送信され、PDFアップロードリンクが記載されている
- ⑤ダウンロードされた扱い手サポート管理システム申請書PDFを印刷し、「情報機器管理者」「管理者」「担当者」欄に押印する
- ⑥PDFアップロードリンクに押印したPDFをスキャンしてアップロードして完了
- ⑦ヘルプデスクが入力内容を確認し、問題なければ、アカウント発行処理が実施される

詳細は扱い手営農サポートシステムのナレッジに格納しております。

(ナレッジURL : [https://zennoh.lightning.force.com/lightning/r/Knowledge\\_kav/ka02x000000WRyxAAG/view](https://zennoh.lightning.force.com/lightning/r/Knowledge_kav/ka02x000000WRyxAAG/view))

※ナレッジは扱い手営農サポートシステムユーザーのみ閲覧可能です。

### ■ヘルプデスク連絡先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-5 リンクスクエア新宿9階

株式会社 全農ビジネスサポート

扱い手営農サポートシステムヘルプデスク

TEL : 03-3350-1157

Eメール : [ninaito-help@z-bs.co.jp](mailto:ninaito-help@z-bs.co.jp)

## ランキング集計

### 【 10月 】月間ランキング

TAC一人当たり面談記録登録状況

JA別-面談記録登録状況

(訪問期間:2025/10/01 ~ 2025/10/31)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JAレーゲ滋賀	2,128	66	32.2
2	JA仙台	1,533	38	40.3
3	JA金沢市	1,228	26	47.2
4	JAフルーツ山梨	1,211	27	44.9
5	JA常総ひかり	1,201	16	75.1
6	JA南彩	1,145	11	104.1
7	JAさいたま	1,047	15	69.8
8	JA兵庫南	1,000	14	71.4
9	JAくるめ	837	8	104.6
10	JA岡山	826	28	29.5

★扱い手営農サポートシステムの面談記録数（業務種別：扱い手対応）を集計

★10月11日登録までの集計

(訪問期間:2025/10/01 ~ 2025/10/31)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JA京都にのくに	167	1	167.0
2	JA柏屋	289	2	144.5
3	JA西印旛	790	6	131.7
4	JAあさか野	772	6	128.7
5	JA福岡大城	126	1	126.0
6	JAさいかつ	482	4	120.5
7	JAよこすか葉山	677	6	112.8
8	JAしおのや	558	5	111.6
9	JAくるめ	837	8	104.6
10	JA南彩	1,145	11	104.1

JA別-面談記録登録状況

(訪問期間:2025/10/20 ~ 2025/11/09)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JAレーゲ滋賀	1,147	62	18.5
2	JA仙台	1,072	36	29.8
3	JA常総ひかり	726	16	45.4
4	JA金沢市	697	26	26.8
5	JA南彩	629	11	57.2
6	JAフルーツ山梨	626	26	24.1
7	JAさいたま	601	15	40.1
8	JA兵庫南	589	15	39.3
9	JAあさか野	521	6	86.8
10	JAよこすか葉山	497	6	82.8

★扱い手営農サポートシステムの面談記録数（業務種別：扱い手対応）を集計

★10月11日登録までの集計

(訪問期間:2025/10/20 ~ 2025/11/09)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JAなす南	345	3	115.0
2	JAあさか野	521	6	86.8
3	JAよこすか葉山	497	6	82.8
4	JAさいかつ	301	4	75.3
5	JA西印旛	369	5	73.8
6	JA柏屋	143	2	71.5
7	JA京都にのくに	70	1	70.0
8	JA東京むさし	199	3	66.3
9	JAしまねくにびき地区本部	116	2	58.0
10	JA南彩	629	11	57.2

## 最近のメディア

### ○スマート農業情報

ザルビオユーザー事例 秋田県 伊藤譲

ザルビオユーザー事例 香川県 横関さん

※担い手営農サポートシステム「ナレッジ」15\_（スマート農業・ICT）に格納

### ○グリーンレポート 11月号 NEW

新技術セミナー～中山間地域におけるスマート農業機械の活用～

JAと連携した農業普及活動～新規農業法人の育成と中心経営体への農地集積・集約～

届け！全農の取り組み～米の多収品種「ZR1」の開発と作付け拡大に向けた取り組み～

担い手とともに～新潟県上越市（農）ファームまちだ 武藤和美さん最新技術を活用して大豆の生産性向上に取り組む～

### ○経営実務 7・8月号

いまこそTACだ！！ 北海道 JAあさひかわ 佐藤航紀氏

いまこそTACだ！！ 神奈川県 JA湘南 濱端興樹氏

いまこそTACだ！！ 神奈川県 JAよこすか葉山 安藤秋徒氏

### ○地上 12月号 NEW

※「地上」の公式HPは[こちら](#)から。

### ○全農Wiークリー

2025年11月3日 (vol. 1126) NEW

※TAC活動の紹介等で転載する場合は申請不要です。

### ○AGRIFUTURE

No. 110 (JAわかやま) 発行 (6/25)

◆生産者の声：新しょうが／すもも／南高梅（なんこううめ）

◆クローズアップ：新しょうがレシピ

◆地域百景：日本一の梅ブランド／和歌山県の「すもも」

フリーペーパー：各県域TAC部署へ送付 HPは[こちら](#)

### ○全農HP

① JAアクセラレーター第7期 採択企業9社が6か月間の成果を発表。YouTube「あぐラボチャンネル」公開 NEW

② 石川佳純さんが国産食材を使用した手作り弁当を披露！ ランチ会＆オンラインイベントで全農職員と交流～ NEW

### ○農業協同組合新聞

① 「節水型乾田直播」は収量安定化が不可欠 超党派「農業の未来を創造する議員連盟」が農水省・農研機構からヒヤリング (1) NEW

② 「発酵」を特集『農研機構技報』第18号を刊行 農研機構 NEW

③ 鳥インフル 米国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省 NEW

④ 鳥インフル 英国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省 NEW

⑤ 米価水準 「下がる」見通し判断が大幅増 NEW

⑥ NICTと連携 農業特化型生成AIモデルの構築へ 農研機構 NEW

⑦ 「製麺所（製麺業）」倒産減少 コメ高騰で麺が人気 帝国データバンク NEW

⑧ 鳥インフル 米サウスダコタ州からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省 NEW

⑨ みどり戦略対策に向けたIPM防除の実践（84）グルコピラノシル抗生物質【防除学習帖】第323回 NEW

⑩ 農薬の正しい使い方（57）ウイルス病の防除タイミング【今さら聞けない営農情報】第323回 NEW

⑪ 米の民間輸入4万8000t 2か月で昨年分超す NEW

⑫ 耕地面積 423万9000ha 3万3000ha 減 農水省 NEW

⑬ 「おてつたび」新語・流行語大賞30語にノミネート NEW

⑭ 備蓄米買い戻し方針の早期提示 施設再編の補助率拡充など重点要請 JAグループ NEW

⑮ 米の生産費高止まり 60kg1万5814円 24年産米 NEW

⑯ 運用収益が改善 期初計画上回り給付還元財源を確保 JA全国共済会 NEW

⑰ 鳥インフル 米イリノイ州からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省 NEW

⑱ 鳥インフル 英国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省 NEW

⑲ 米の乾田直播 省力化に期待も大きな課題 JA営農担当者に聞く NEW

- ①農林水産物・食品の輸出額 1兆2000億円 1~9月 15.1%増 **NEW**
- ②米生産 現場は離農増を懸念 経営環境の安定化が急務 食糧部会 **NEW**
- ③JA貯金残高 107兆2325億円 9月末 農林中金 **NEW**
- ④未来のアグリ「クマ対策支援チーム」を創設 **NEW**
- ⑤「ジャンボタニシ」の食害被害を防ぐ新技術開発 ドローンで被害を事前予測・スポット散布 農研機構 **NEW**
- ⑥11月の野菜生育状況と価格見通し ばれいしょ、たまねぎなど平年を上回る見込み 農水省 **NEW**
- ⑦自動車共済の仕組改訂など 2026年1月実施 「日常生活事故弁護士費用保障特約」新設 JA共済連 **NEW**
- ⑧外食市場調査 9月度 2019年比93.8%3か月連続で回復傾向 **NEW**
- ⑨11月の飲食料品値上げ143品目 11か月ぶり前年下回る 帝国データバンク **NEW**
- ⑩鳥インフル 英ランカシャー州からの生きた家きん、家きん肉等 一時輸入停止措置を解除 農水省 **NEW**
- ⑪みどり戦略対策に向けたIPM防除の実践(83) テトラゾリルオキシム【防除学習帖】第322回 **NEW**
- ⑫農薬の正しい使い方(56) 細菌病の防除タイミング【今さら聞けない営農情報】第322回 **NEW**
- ⑬27年6月末 最大245万tの民間在庫 米の需給見通し **NEW**
- ⑭米の1等比率は77.0% 9月30日現在 **NEW**
- ⑮2025肥料年度春肥 高度化成は4.3%値上げ **NEW**
- ⑯クマ対策で機動隊派遣 自治体への財政支援など政府に申し入れ 自民党 **NEW**
- ⑰【スマート農業の風】(20) GAP管理や農家の出荷管理も絡めて活用 **NEW**
- ⑱鳥インフル ハンガリーからの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省 **NEW**
- ⑲鳥インフル 米ミシガン州からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省 **NEW**
- ⑳鳥インフルエンザウイルスの地理的拡散と進化 2024年シーズンの遺伝子を解析 農研機構 **NEW**
- ㉑鳥インフル 英国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省 **NEW**
- ㉒JGAP認証農場の温室効果ガス排出量の可視化 サグリと共同研究 日本GAP協会 **NEW**
- ㉓1人当たり精米消費量、前年同月マイナス7カ月に 高値が影響か 米穀機構 **NEW**
- ㉔基腐病に強い赤紫肉色のサツマイモ新品种「さくらほのか」を育成 農研機構 **NEW**
- ㉕病害虫発生情報

※ 本リンクは、インターネット上にある新聞や各種情報のうち、TAC・営農支援課が扱い手に関係する内容を収集して作成しています。

全農本所 耕種総合対策部 TAC・営農支援課

TEL:03-6271-8276

FAX:03-5218-2535

[mailto:zz\\_zk\\_tac@zennoh.or.jp](mailto:zz_zk_tac@zennoh.or.jp)



HP

### TAC・出向く活動パワーアップ大会2024「大会宣言」

我々TACは、

一、扱い手の声に寄り添い、

JAグループの力を発揮し、真摯に応えます。

一、扱い手とともに、

「地域農業」と「食」の未来を守り続けます。

一、TACなど訪問活動の輪を広げ、

新たな可能性に挑戦していきます。

★第2・第4水曜を基本に定期配信します（水曜日が祝日の場合は休刊します）★

※お休み等で配信日が変更となることもあります。ご了承ください。